新型コロナウイルス感染症（COVID-19）流行時における保育者および小学校教員養成校の歌唱を中心としたクラス授業についての実践報告（2）
－他大学において全ての授業を遠隔授業にて実施した事例－

Practice Report about Class around Singing in the School for Training of Nursery Teacher and Elementary School Teacher during the COVID-19 Epidemic（2）
－An Example of Conducting All Lectures in a Distance Learning at Other College－

和田　宏一
WADA Hirokazu

キーワード：新型コロナウイルス感染症（COVID-19），音楽教育，歌唱，保育者養成，遠隔授業
Key Words : COVID-19，Music Education，Singing，Nursery Teacher Training，Distance Learning

1. はじめに

前研究「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）流行時における保育者および小学校教員養成校の歌唱を中心としたクラス授業についての実践報告」[1)]では，新型コロナウイルス感染症流行（以下，コロナ禍とする）の状況下，奈良佐保短期大学（以下，本学とする）地域こども学科において2020年度前期に担当した「保育内容（表現・音楽）」の歌唱のクラス授業（集団授業）に際し，遠隔授業時および対面授業[注1)]時それぞれに採用した授業方式について研究報告を行った．その結果，同年4～5月の遠隔授業時に実施した「携帯電話を用いての音声通話授業」は「テレビ会議システムが利用できない際にのみ用いるという条件であれば遠隔授業の一つの方法として適切」であり，同年6月以降の対面授業で実施した「範唱の鑑賞」および「声楽専門教員による弾き歌い個人レッスン」については「通常時のクラス授業をある程度担保できていた」との結論に至った．

本学では前稿執筆時から引き続き対面授業を継続しているが，コロナ禍は終息に至っておらず，現在も遠隔授業に切り替わる可能性は無くなっていない．一方，筆者は2020年度より大阪国際大学短期大学部（以下，大阪国際大短大部とする）幼児保育学科「音楽I」においても歌唱の集団授業[注2)]を担当しており，同年度前期は本学と同様，感染状況に対応して遠隔授業と対面授業の両方を実施したが，同年度後期は大阪府における感染拡大の影響により，15回全ての授業を遠隔授業にて行った[2) 3) 4) 5)]．また，大阪国際大短大部は同年度開始時から「インターネットを用いての授業資料・動画・レポート課題の配信および課題提出」「Zoom[注3)]等のテレビ会議ツールを用いた同時双方向型授業」等，ICTを活用した遠隔授業が可能となっており，「音楽I」においても，前研究で実施した「音声通話授業」とは全く異なる方式にて遠隔授業を実施している．

また，前稿において「コロナ禍における養成校の音楽関連科目の取り組みに関する研究はまだ見られない[6)]」と述べたが，本研究までの約一年で相応に増加している．しかし，その多くはピアノのレッスンおよびピアノ専門教員による弾き歌いのレッスンに関する研究であり，コロナ禍の養成校における「歌唱の授業」および「声楽専門教員による弾き歌いレッスン」についての研究は，筆者の前稿を含めてもまだわずかである[注4)]．

以上をふまえ，本研究では，前稿からの継続研究として，大阪国際大短大部2020年度後期「音楽I」の歌唱の遠隔授業において用いた複数の授業方式について実践報告を行い，アンケートの結果を通し，それぞれの方式が歌唱の遠隔授業の方法として適切であったかの

検証を行う．続いて，その検証結果が，今後本学において遠隔授業を行うことになった際，過去の研究で取り上げた「音楽 II」および「保育内容（表現・音楽）」のクラス授業において，どのように応用可能であるかを考察する．これらにより，コロナ禍における保育者および小学校教員養成校（以下，養成校とする）の歌唱の集団授業のあり方について，さらなる方法論を提示することを目的とする．なお本研究は，大阪国際大短大部幼児保育学科の許可を得て行うものであることを付記する．

2. 大阪国際大学短期大学部「音楽Ⅰ」の概要

大阪国際大短大部「音楽Ⅰ」（以下，本教科とする）は幼児保育学科 1 年次を対象とした通年科目である．半期は筆者による「歌唱」の授業（以下，本授業とする）であり，一方の半期は専任教員による「リズムあそび」「簡易リズム楽器の制作」「歌の旋律への伴奏付け」「器楽合奏」等の授業が行われている．

2020 年度の幼児保育学科 1 回生は，学生 13〜14 名ずつを 10 グループの「ゼミ」（A〜J ゼミ）に分けているが，本教科では「A・B ゼミ」のように 2 つのゼミを 1 グループとし，同年度後期は「E・F ゼミ」および「G・H ゼミ」の 2 グループ（4 ゼミ）が本授業を受けた．

次に，本授業において対面授業を実施した場合の授業内容の計画（以下，対面授業計画とする）について以下に示す．

(a)「自然で楽に歌うための発声法」をテーマとした講義
声帯・呼吸・共鳴など「声の出るしくみ」について説明し，どのような点に留意すると自然で楽に歌えるのかについての講義およびエクササイズの指導を行う [7]．

(b) 子どもの歌についての学習および歌唱
保育の現場でよく歌われる曲を，季節・生き物・食べ物・乗り物等のカテゴリーに分類して紹介し，筆者による範唱に続いて学生による斉唱を行う [8]．

(c) ソルフェージュ
本授業の前任者がソルフェージュに関する指導も行っていたことを受け，専用の教材および童謡の楽譜を用い，正確なリズムおよび音高で歌うための演習を行う．

(d) 歌の個人レッスン
グループ全員による斉唱のみでは，個々の学生の発声等の問題点について把握することが困難であることから [9]，授業の終わりの 15〜20 分ほどを用いて毎回 3〜4 名ずつ「歌の個人レッスン」を実施する [10]．

上記の対面授業計画の（a）（b）（d）については，本学における「音楽 II」および「保育内容（表現・音楽）」のクラス授業の内容と同様であることから，本授業もこれらの授業と類似しているといえる．ただし，本学ではこれらの授業を 1 グループ 45 分にて行うのに対し [11] [12]，本授業は 1 グループ 90 分にて行う点が異なっている．

3. 本遠隔授業の実施

3-1 本遠隔授業の実施期間および授業方式

本研究の対象である 2020 年度後期の本授業（以下，本遠隔授業とする）を実施した期間は，以下の通りである．

年　度：2020 年度後期「音楽 I」歌唱
期　間：2020 年 9 月 21 日〜2021 年 2 月 1 日（15 回実施．授業日については表 1 参照）
時　限：月曜日 3 限目（1 回生 E・F ゼミ）および火曜日 3 限目（1 回生 G・H ゼミ）
履修者：計 56 名（初回授業時点．1 グループ 28 名（1 ゼミあたり 13〜15 名）．学年別では 1 回生 54 名，2 回生（再履修）2 名．男女別では男子 3 名，女子 53 名）

次に，各回の授業日および本遠隔授業にて採用した授業方式を表 1 に示す．なお，表中の各方式の冒頭に記載している［A-1］［B］等の分類については，「A-」が付く項目は「集団授業を遠隔授業に置き換える目的で用いた授業方式」を，「B」は「Zoom を用いた歌の個人レッスン」を表す．各方式の詳細については次節以降に述べる．

表 1　大阪国際大短大部 2020 年度後期「音楽 I （歌唱)」遠隔授業方式一覧

回	月曜 授業日	火曜 授業日	授業方式 月曜 E ゼミ／火曜 G ゼミ	月曜 F ゼミ／火曜 H ゼミ
1	9 月 21 日	9 月 22 日	[A-1] 資料配信のみによる自習型授業	
2	9 月 28 日	9 月 29 日	[A-1] 資料配信のみによる自習型授業	
3	10 月 5 日	10 月 6 日	[A-2] Zoom を用いた同時双方向型授業	
4	10 月 12 日	10 月 13 日	[B] Zoom を用いた歌の個人レッスン	[A-3] 資料配信および YouTube 動画による自習型授業
5	10 月 19 日	10 月 20 日	[A-3] 資料配信および YouTube 動画による自習型授業	[B] Zoom を用いた歌の個人レッスン
6	10 月 19 日 (6 限)	10 月 27 日	[B] Zoom を用いた歌の個人レッスン	[A-3] 資料配信および YouTube 動画による自習型授業
7	10 月 26 日	11 月 3 日	[A-3] 資料配信および YouTube 動画による自習型授業	[B] Zoom を用いた歌の個人レッスン
8	11 月 30 日	12 月 1 日	[A-3] 資料配信および YouTube 動画による自習型授業	
9	12 月 7 日	12 月 8 日	[A-2] Zoom を用いた同時双方向型授業	
10	12 月 14 日	12 月 15 日	[B] Zoom を用いた歌の個人レッスン	[A-4] 資料および講義動画配信によるオンデマンド授業
11	12 月 21 日	12 月 22 日	[A-4] 資料および講義動画配信によるオンデマンド授業	[B] Zoom を用いた歌の個人レッスン
12	1 月 8 日 (4 限)	1 月 8 日 (3 限)	[A-4] 資料および講義動画配信によるオンデマンド授業	
13	1 月 18 日	1 月 12 日	[A-2] Zoom を用いた同時双方向型授業	
14	1 月 25 日	1 月 19 日	Zoom を用いた期末の演奏発表	[A-4] 資料および講義動画配信によるオンデマンド授業
15	2 月 1 日	1 月 26 日	[A-4] 資料および講義動画配信によるオンデマンド授業	Zoom を用いた期末の演奏発表

3-2 集団授業を遠隔授業に置き換える目的で用いた授業方式

本節では，表 1 に記載の授業方式のうち，「A-」を付した「集団授業を遠隔授業に置き換える目的で用いた授業方式」について述べる．これらは［A-1］～［A-4］の 4 方式に分かれているが，いずれも前章で述べた対面授業計画のうち (a)「『自然で楽に歌うための発声法』をテーマとした講義」および (b)「子どもの歌についての学習および歌唱」を担保することを目的として実施している．

以下，各方式についてそれぞれ概要および流れを示す．

［A-1］「資料配信のみによる自習型授業」（第 1・2 回）

第 1・2 回授業では，学生の Google Classroom [注 5)] への登録が完了していなかったことから UNIPA [注 6)] の課題配信機能を用いて事前に授業資料を配信し，各学生は資料を読んで学習する自習型の方式を採用した．動画は配信していない．

授業内容は，第 1 回が本授業についてのガイダンス，第 2 回は第 1 回のレポート課題であるアンケートの結果の共有，および結果に対する論評を行った[注 7)]．

学習終了後，各学生は資料内の指示に従いレポート課題を手書きにて作成し，書いた課題をスマートフォン等のカメラを用いて撮影．撮った画像を UNIPA に登録して提出した．

［A-2］「Zoom を用いた同時双方向型授業」（第 3・9・13 回）

本遠隔授業において Zoom を用いた同時双方向型授業を行うとどのような学習効果および問題が生じるかという試験的動機から，計 3 回の授業においてこの方式を採用した．手順であるが，Google Classroom を用いて事前に授業資料および Zoom への入室 URL を配信し，各学生は資料をダウンロードした上で自身のパソコンまたはスマートフォンから Zoom にアクセスし，入室して同時双方向型授業を受講する．なお，入室の際はマイクおよびカメラ機能をオフとすることを許可している[注 8)]．

授業内容は，第 3 回は「声の出るしくみ」「自然に歌うための発声法」の講義で

対面授業計画の（a）を，第 9・13 回は「子どもの歌の歌唱」についての講義で（b）をそれぞれ担保するものであった．

授業終了後，各学生は Google Classroom から Google フォーム（Google Forms）によるレポート課題にアクセスし，回答を記入して提出した．

［A-3］「資料配信および YouTube 動画による自習型授業」（第 4〜8 回）

この方式は，筆者の弾き歌いによる範唱および歌唱上のアドバイスを 1 曲ずつ収録した複数の動画を事前に YouTube に登録し[注 9)]，動画にアクセスするための URL を記載した授業資料を Google Classroom にて配信するものである．資料を端末で開いた状態で URL をクリックすると動画を視聴することができる．資料配信のみの［A-1］に対し，動画による範唱とアドバイスが加わることにより，各学生が自宅にて歌唱および弾き歌いの練習を行う際の参考とすることができる．

授業内容は，第 4・5 回は「自然に歌うための発声法」についての講義で対面授業計画の（a）を，第 6〜8 回は「子どもの歌の歌唱」についての講義で（b）をそれぞれ担保するものであった．

なお，授業終了後のレポート課題については［A-2］と同様である．

［A-4］「資料および講義動画配信によるオンデマンド授業」（第 10〜12・14・15 回）

この方式は前述の［A-3］と類似しているが，筆者の弾き歌いによる範唱および歌唱上のアドバイスを含めた講義全体を一本の動画にまとめて収録している[注 10)]点が異なっている．また，動画を授業資料と共に Google Classroom から直接配信することで，［A-3］と比して各学生が受講する際の手間の軽減も図っている．

授業内容は，第 10〜12・14・15 回すべて「子どもの歌の歌唱」についての講義で，対面授業計画の（b）を担保するものであった．

こちらも，授業終了後のレポート課題については［A-2］と同様である．

次に，これらの方式を用いて授業を行った際の所感を以下に述べる．

＜良いと感じた点＞

・いずれの方式も，遠隔授業であることから新型コロナウイルス感染症の感染拡大を予防でき，学生も教員も安心して授業を実施できる．

・［A-3］および［A-4］は，動画の範唱に合わせて学生が歌うことにより，歌の練習を行うように自宅での学習を指示できた．これは対面授業および Zoom を用いた［A-2］には無い，事前に収録した動画を用いた授業の利点といえる．

・［A-3］および［A-4］では，授業後に再度動画を視聴することで，繰り返し復習を行うことが可能であった．これも動画を用いた授業の利点といえる．

＜問題点＞

・遠隔授業のシステムを理解できていない学生が一部に見られ，対応に苦慮した．

・［A-1］では動画を用いていないことから，指導できる内容に制約が多い．それゆえ，ガイダンスおよびガイダンス時に実施した受講アンケートのフォローを行った第 1・2 回授業にのみ，この方式を採用した．

・［A-1］授業後のレポート課題であるが，手書きかつ携帯電話等のカメラで撮影した画像として提出されたことから，一部に判読することが困難な回答が見られた．

・［A-1］［A-3］［A-4］の 3 方式は，学生の都合の良い時に受講できることから，提出期限の間際に課題を提出する学生が多く，一部に資料および動画をしっかり見ていないと思われる回答が見られた．

・［A-2］ではインターネットの環境から，Zoom への入室に時間がかかる，授業中に意図せず Zoom から退室となる，エラーが生じて Zoom に入室できない等のトラブルが見られ，それらへの対応のため授業開始がしばしば遅れた．

・［A-2］では，すべての学生がカメラ機能をオフにしたことで授業時の学生の反応が全く見えなくなったこと，および筆者がピアノで伴奏を弾いて斉唱させることが，Zoom の特性により音声が遅延する・途切れる等の不具合が生じるためできなかったこと，これ

らにより同時双方向型授業の利点があまり感じられなかった.

まとめると,［A-1］および［A-2］は良いと感じた点より問題点の方が多いこと,［A-3］および［A-4］は範唱・講義の動画が授業の復習および歌の練習に活用可能であること,これらにより,「集団授業を遠隔授業に置き換える目的で用いた授業方式」4 方式については,［A-3］「資料配信および YouTube 動画による自習型授業」および［A-4］「資料および講義動画配信によるオンデマンド授業」が適切であると感じた.

3-3 Zoom を用いた歌の個人レッスン

本節では,表 1 に記載の授業方式のうち,［B］「Zoom を用いた歌の個人レッスン」(以下,本レッスンとする)について述べる.本レッスンは,対面授業計画の(d)「歌の個人レッスン」を遠隔授業に置き換えたものであるが,発声について指導することで(a)「『自然で楽に歌うための発声法』をテーマとした講義」,子どもの歌を課題曲とすることで(b)「子どもの歌についての学習および歌唱」,音高およびリズムの指導を行うことで(c)「ソルフェージュ」の学習,以上 3 項目を併せて担保しているといえる.

本レッスンは学生のパソコンまたはスマートフォンから Zoom を用いて一人ずつ順に入室させることにより,マンツーマンにて実施した.入室の際は Zoom の「待機室機能」[注 11)]を用い,複数の学生が同時に在室しないよう配慮した.

1 回の授業における受講人数であるが,1 グループ(2 ゼミ)全員を対象とはせず,1 つのゼミ,すなわち 13〜15 名ずつに限定した.1 つのゼミに限定した理由は,学生一人あたりの持ち時間が,1 グループ全員が対象の場合約 3 分と短く,1 つのゼミに限定すると 6〜7 分確保できるからである.受講人数を限定したことにより,その都度レッスンを行わないゼミが生じるが,当該のゼミには［A-3］「資料配信および YouTube 動画による自習型授業」または［A-4］「資料および講義動画配信によるオンデマンド授業」を受講させた.

受講場所については各学生の自宅を基本とし,住環境により自宅で大きな声が出せない学生に対しては学内のピアノレッスン室での受講を推奨した.しかし,大学から遠方に居住等の理由で来学が困難な場合は,自宅にて声量を抑えた状態で歌うこと,自家用車の車内および屋外で歌うことを許可した.

次に,本レッスンを実施した授業回および課題曲,レッスンの流れについて以下に示す.

＜本レッスンを実施した授業回および課題曲＞

- 第 1 回レッスン:第 4 回授業時 E・G ゼミ,第 5 回授業時 F・H ゼミ
- 第 2 回レッスン:第 6 回授業時 E・G ゼミ,第 7 回授業時 F・H ゼミ
- 第 3 回レッスン:第 10 回授業時 E・G ゼミ,第 11 回授業時 F・H ゼミ
- 課題曲:第 1 回および第 2 回レッスンは「大きな栗の木の下で」[13)]「どんぐりころころ」[14)]「たきび」[15)]「思い出のアルバム」[16)]から 1 曲選択,第 3 回レッスンは「おべんとう」[17)]「たきび」[15)]「こぎつね」[18)]から 1 曲選択.

＜レッスンの流れ＞

筆者は Google Classroom を用い,事前に Zoom への入室 URL および学生毎のレッスン開始時間一覧(1 番の学生は 13 :00,2 番の学生は 13 :06…etc.)を配信しておく.各学生は開始時間の少し前に Zoom にアクセスするが,Zoom の「待機室機能」により,すぐには入室できず待機状態となる.前の学生が Zoom から退出後,筆者が次の学生の入室許可操作を行うことにより,入室してレッスンを受ける.

なお,入室に際しては,姿勢・身体の使い方・呼吸・発音・口の開け方等の発声指導を行う目的から,「Zoom のマイクおよびカメラ機能は必ずオンにすること」[注 12)]「できるだけ全身が映るように端末を設置して立位で歌うこと」「マスクは原則として着けないこと」を指示している.

入室後,各学生は 3 曲の課題曲から 1 曲選択して歌った.その際,Zoom の特性上,筆者がピアノ伴奏を弾いて歌わせると学生の歌がほとんど聴こえなくなることから,筆者は前奏と歌の冒頭の 1 音のみを弾き,アカペラ(無伴奏)で歌わせる方法を採った.

歌唱後は,まず学生に自身の演奏に対する感想をたずね,続いて筆者が感想を述べ,問

題点について指摘し，改善方法を指導した．

主な問題点と指導した改善方法は以下の通りである．

（ⅰ）声が小さい・出にくい・かすれる：「ひじまる体操」「開脚スクワット」等のエクササイズの実施，凝っていると思われる箇所（肩，首，鎖骨の下，小胸筋等）をほぐす，姿勢の改善，膝を少し曲げた状態で歌うことを指示した[10)]

（ⅱ）声が硬い：上記（ⅰ）と同様の指示に加え，歌詞の発音（滑舌）および旋律の冒頭を柔らかく歌い始めるように指示した[10)]

（ⅲ）高音のみ音高が下がる：高音を歌う際はファルセット（裏声）を積極的に用いるように指示した

（ⅳ）全体的に音高が正しくない：1つの旋律ごとに筆者がピアノで旋律を弾きながら範唱を聴かせ，続いて学生が歌うことを繰り返した．伴奏を伴うと正しい音高で歌える学生については筆者が伴奏を弾いて一緒に歌わせたが，その際，断片的には学生の声が聴こえたため，その声によって音高が改善したか判断した．練習の際は，ピアノで旋律を弾きながら歌うことおよび自分の声を聞いてピアノと音高が合っているか確認するように指示した

主な問題点と指導した改善方法は以上であるが，指導後は再度同じ曲を歌わせ，指導およびエクササイズの効果を体感させた．

本レッスン終了後はアンケートを実施し，気づきおよび感想について記入させた．なお，アンケートの詳細については次章に述べる．

続いて，本レッスンの所感を以下に示す．

＜良いと感じた点＞

・歌っている姿が見えることにより，姿勢等，それぞれの学生の身体の使い方がよく分かり，発声指導に役立った．

・原則としてマスクを着用せず歌わせたため，口の開け方，ブレス（呼吸および息継ぎ），顔の表情がよく分かり，発声指導に役立った．

・アカペラで歌わせたが，ほとんどの学生は概ね正しい音高で歌えていた．

・歌を聴く分には，音質的な問題（音が割れる，音が粗い等）をあまり感じなかった．

＜問題点＞

・対面授業時の個人レッスンにおいては，肩甲骨の間，背中，肩，首等に凝りがないかを筆者が直接確認し，凝っている箇所をほぐして再度歌わせる指導[10)]を行っているが，遠隔授業ではこの確認が不可能であり，歌声を聴くのみでどの部位が凝っているかを予測する必要があった．また，ほぐす際も，筆者が直接ほぐすことが不可能であることから，エクササイズを指示することのみで対処した．

・Zoomの特性上，伴奏を伴って歌わせることが難しいことから，正しい音高で歌うことが困難な学生への指導に苦慮した．

・インターネットの環境（Wi-Fiの電波が不安定である等）から，一部の学生については，入室が遅れる，エラーが生じて入室できない，自動的に退室となる，お互いの音声および映像が止まったり途切れる等の不具合が生じた．

・自家用車の車内から受講したケースでは立位で歌うことが不可能であることから，座席に座った状態で歌うことを許可した．

まとめると，本レッスンは，問題点もいくつかあるものの，学生の姿および顔が見えることが発声指導に役立ったという点で，コロナ禍の遠隔授業における歌唱指導の方法の一つとして有益であり，対面授業方式で行う個人レッスンをある程度は担保できていたのではないかと感じた．

3-4 Zoomを用いた演奏発表

本節では，第14・15回授業時に実施した「Zoomを用いた演奏発表」（以下，本発表とする）について述べる．なお，発表の際，学生の演奏に対して採点を行ったことから実際は学期末の実技試験といえる．本発表は，Zoomを用いて学生を一人ずつ順に入室させることに

よりマンツーマンにて実施したこと，発表人数を 1 回の授業につき 1 つのゼミに限定したこと，自宅からの発表を基本としたこと，これらについて本レッスンと同様である．発表人数を限定したことにより，本発表を行わないゼミが都度生じるが，当該のゼミには［A-4］「資料および講義動画配信によるオンデマンド授業」を受講させた．

次に，本発表を実施した授業回および課題曲，発表の流れについて以下に示す．

＜本発表を実施した授業回および課題曲＞

・実施した授業回：第 14 回授業時 E・G ゼミ，第 15 回授業時 F・H ゼミ

・課題曲：「おべんとう」[17]「たきび」[15]「こぎつね」[18] から 1 曲選択（第 3 回本レッスンの課題曲と同一）

＜発表の流れ＞

入室までの流れおよび入室に際しての指示については本レッスン時と同様である．

入室後，各学生は 3 曲の課題曲から 1 曲選択して歌うことで発表を行った．その際，筆者はレッスン時と同様に前奏と歌の冒頭の 1 音のみを弾き，アカペラ（無伴奏）で歌わせた．また，2 回まで歌うことを許可し，どちらか良かった方の歌唱に対して採点を行った．

本発表終了後は「2020 年度後期「音楽 I （歌唱）」期末アンケート」を実施したが，こちらについては次章で述べる．

4. 遠隔授業において実施したアンケートについて

4-1 「第 1 回 Zoom を用いた歌の個人レッスン後アンケート」の概要および結果

本章では，本遠隔授業において実施したアンケートの内，「第 1 回 Zoom を用いた歌の個人レッスン後アンケート」および「2020 年度後期 音楽 I （歌唱）期末アンケート」について述べる．なお，本レッスンについてのアンケートはレッスンに合わせ 3 回実施しているが，第 1 回レッスン後のアンケートは初めての個人レッスンであったことから様々な感想・気づきが見られたこと，第 2 回および第 3 回レッスン後のアンケートは第 1 回と類似の感想が多く見られたこと，これらにより，第 1 回レッスン後のアンケートについて記述することとする．

まず，「第 1 回 Zoom を用いた歌の個人レッスン後アンケート」（以下，レッスンアンケートとする）であるが，概要は以下の通りである．

＜レッスンアンケートを実施した授業回および課題曲＞

・実施した授業回：第 4 回授業時 E・G ゼミ，第 5 回授業時 F・H ゼミ，それぞれ第 1 回本レッスン終了後

＜レッスンアンケートの流れ＞

・各学生は Google Classroom に入り，Google フォームによる期末アンケートにアクセスし，フォームに直接回答を記入して送信する形で提出した．回答は全て記述式である．なお，結果は授業改善および研究にのみに使用し，個人情報について開示されないことを回答者に通知し，承諾を得ている．

次に，レッスンアンケートの結果を表 2 に示す．なお，回答が記述式であることから一人で複数の意見を書く学生がいたため，回答数の合計が回答者総数より多い．また，類似の回答はまとめて表記し，（ ）にその数を記した．

結果であるが，「高い音を歌うときは裏声を使った方が歌いやすくなる・きれいな声で歌えることが分かった」「膝を曲げて歌うというアドバイスで高音が出やすくなった」等，レッスンによって体感した歌いやすさおよび声の変化についての感想，「自分自身では気づかないことを指摘されたことで、自分の歌い方のどこが良くないか知ることができた」「意外と高い声が出せることに気づくことができた」等，レッスンによる気づきについての感想，「裏声で歌うのがまだ慣れないので、慣れるよう練習してみようと思う」「非常に緊張した」等，その他の感想に分類できるが，いずれのカテゴリーにおいても概ね好意的な感想が多い．また，一人で複数の感想を書いた学生が多く見られたことも特徴である．これらは，本学の「音楽 II」にて実施した対面授業方式での歌の個人レッスン後のアンケート結果と類似して

表 2　第 1 回 Zoom を用いた歌の個人レッスン後アンケート結果

	第 1 回 Zoom を用いた歌の個人レッスンを受けて気づいたこと・感想
歌いやすさおよび声の変化	・高い音を歌うときは裏声を使った方が歌いやすくなる・きれいな声で歌えることが分かった(5) ・地声で歌う箇所と裏声に切り替える箇所を決めて歌うと歌いやすくなった(4) ・低音は無理に頑張らないで軽く歌うと歌いやすくなることが分かった(4) ・膝を曲げて歌うというアドバイスで高音が出やすくなった(4)　・アドバイスに従って歌うと歌いやすくなった(3) ・今まで裏声が出しにくかったが、レッスンを受けると綺麗に出せた・出しやすくなった ・ちょっとした違いで声が出やすくなることを知った　・コツを教えてもらったらすぐに上手く歌えたのでとても驚いた ・滑舌を良くしすぎない方が上手く歌えることを知った ・ひじまる体操をして肩を回すだけで声の出方が分かりやすく変わった ・上半身に不必要な力を入れず、足腰を使うことを意識すると歌いやすくなった ・柔らかく歌うことで自然とビブラートの効いた声で歌うことが出来た ・歌い出しを控えめにして後からちゃんと歌うようにするとすごく歌いやすくなり、いつもより上手に聴こえた気がした ・大きな声でハキハキ歌えば良いと今まで思っていたが、それらをしすぎない方がかえって歌いやすくなった ・立って歌うのと座って歌うのでは、声の出しやすさや声量が変わることに気づいた ・車の中から受けたが、声を軽く出すことを意識するととても楽に歌えるようになった
気づき	・自分自身では気づかないことを指摘されたことで、自分の歌い方のどこが良くないか知ることができた(4) ・意外と高い声が出せることに気づくことができた(3)　・滑らかに歌うことを意識しようと思った(2) ・正しい音程で歌うための練習方法を知ることが出来たので、それで練習しようと思う(2) ・無意識にキーを下げていたことに驚いた　・上手く歌うためのコツが分かったように思う ・どうやったら大きな声が出せるかを知ることができて良かった ・声を途切れさせず滑らかに歌う必要があることを知った ・歌い出しの発音をきつくしない方が良いことを知った　・おへその少し下に手を当てて歌うと歌いやすくなった ・ビブラートについて質問できたことと「今ちょっとビブラートついてたよ」と言ってもらえたのが嬉しかった ・高音が連続する箇所ではなるべく繋げて歌うようにしようと思った ・手を後ろで組むと歌いにくくなると分かっているけど、つい癖で組んでしまっていた ・頬に力を入れすぎていることで高い声が出しにくくなっていることに気づけて良かった ・人に歌を聴かれるのは恥ずかしいと思っていたが、先生に歌い慣れてる感じがするし全然変じゃないと言われ、思っているよりも歌えているのかなと思った ・無理に頑張らなくても声が出やすくなる方法があることが分かった
その他感想	・裏声で歌うのがまだ慣れないので、慣れるよう練習してみようと思う(6)　・非常に緊張した(4) ・今後のレッスンも頑張って歌いたいと思う(2)　・思ったより楽しかった(2)　・アドバイスが的確でためになった(2) ・レッスンで学んだことを現場でも活かしたい　・次のレッスンではもっと上手く歌えるようになりたい ・今後歌う機会があったとき役に立つと思った　・今後、歌に対する苦手意識をなくしていきたいと思った ・最初は緊張して上手く歌えなかったが、先生に良い点を言ってもらって自信がつき、ちゃんと歌えるようになった ・今まで音痴だと言われ自信をなくしていたが、もっと自信を持っていいと言われたので今後は自信を持とうと思う ・レッスンを受けたことで、歌うことへの抵抗感が少し薄れたような気がした ・今まで歌うことに自信がなかったが、上手く聞かせる方法を知ることができて良かった ・Zoom による音のズレが気になったが勉強になった　・あっという間にレッスンが終わったのでびっくりした ・自宅で家族に聞かれるのが嫌で緊張してしまい、思うように上手く歌えなかった　回答者総数：52

いることから，本レッスンは対面での個人レッスンと同等の印象と気づきを与えたと考えることができる[19]．一方で，「Zoom による音のズレが気になった」「自宅で家族に聞かれるのが嫌で緊張してしまい、思うように上手く歌えなかった」といった，Zoom を用いたことに対しての問題点も挙げられており，これらについてどのように配慮を行うかが，今後遠隔授業方式にて歌の個人レッスンを行うにあたっての課題であるといえる．

4-2 「2020 年度後期 音楽Ⅰ（歌唱）期末アンケート」の概要および結果

次に，「2020 年度後期 音楽Ⅰ（歌唱）期末アンケート」（以下，期末アンケートとする）の概要は以下の通りである．

＜期末アンケートを実施した授業回および課題曲＞

・実施した授業回：第 14 回授業時 E・G ゼミ，第 15 回授業時 F・H ゼミ，それぞれ演奏発表終了後

＜期末アンケートの流れ＞

・各学生は Google Classroom に入り，Google フォームによる期末アンケートにアクセスし，フォームに直接回答を記入して送信する形で提出した．質問【1】【2】【4】の回答

は記述式,【3】【5】は選択式である．なお，結果は授業改善および研究にのみに使用し，個人情報について開示されないことを回答者に通知し，承諾を得ている．

続いて，期末アンケートの結果を表 3 に示す．なお，記述式の回答については一人で複数の意見を書く学生がいたため，回答数の合計が回答者総数より多い．また，類似の回答はまとめて表記し，( ) にその数を記した．

結果についてであるが，質問【1】「後期は 15 回すべてが遠隔授業になったため、“教室で皆と一緒に歌う”ということができませんでしたが、そのために困ったことや不満を感じたことは何かありましたか？」は，本授業の全ての回が遠隔授業となったこと，および遠隔授業の実施により斉唱・合唱ができなかったことに対する質問であるが,「皆で歌った方が「歌っている」という気持ちになることができ、楽しかったのではないかと思った。皆で一緒に歌いたかった。皆と一緒に歌えなかったことが残念」をはじめとした,「皆と一緒に歌えなかったことについて」カテゴリーの意見が計 28 名（54.9%）と半数を占めている．これらの意見は「皆と一緒に歌うことができれば楽しかったはずだ」という発想に基づくものと推察するが，一方で「他の学生の歌声が聴けないので、周りがどれくらい歌えているのか気になった」「皆と自分との実力差が分からないので、置いていかれるのではないかと不安を感じた」という意見も挙がっており，周囲との実力差が気になることが一緒に歌いたい動機となる例もあるということが興味深い．また,「他の人の声が聴こえない中、一人で歌うことに不安を感じた」「自宅からのレッスンは家族がいるときに恥ずかしさを感じた」「Zoom 越しではちゃんと自分の声が伝わっているのか不安を感じた」等，本レッスンの際に不安を感じていたという意見も計 18 名（35.3%）から挙がった．前節におけるレッスンアンケートにおいて不安を感じる旨の意見はわずかであったが，実際には 3 分の 1 の学生が不安を感じていたことがこの質問によって判明した．

質問【2】「第 4 回授業以降、主に先生の弾き歌いのお手本を鑑賞する方法を取り入れましたが、この授業方法についてどのように思いましたか？」は，前章の［A-3］「資料配信および YouTube 動画による自習型授業」および［A-4］「資料および講義動画配信によるオンデマンド授業」において，事前に範唱および曲についての説明を収録した動画を取り入れたことに対する意見を求めたものである．結果は「曲についての説明や上手く歌うためのヒントの話があったのが良かった」「お手本によって、どのように弾き歌いすれば良いかおよびポイントがよく分かった」をはじめ，好意的な意見が大半であった．このことは「集団授業を遠隔授業に置き換える目的で用いた授業方式」として［A-3］および［A-4］が適切な授業方式であることを裏付けるものであるといえる．

質問【3】「音楽 I で対面授業を行っていた場合、マスク着用で歌うことが求められましたが、Zoom で個人レッスンを行った際はほとんどの学生が自宅でマスクなしで歌っていました。あなたは「リモートレッスンでマスクを着けずに歌う」のと「対面授業でマスクを着用して歌う」のと、どちらが良かったと思いますか？」は，コロナ禍における歌唱の授業のあり方について意見を求めたものである．その結果,「遠隔授業でマスクを着けずに歌う方が良い」が 34 名（66.7%）と 3 分の 2 を占めた．しかし，これは質問【1】において「皆と一緒に歌えなくて残念」との回答が多かったことと対照的である．このことについて，本音では対面授業で皆で歌いたかったが，コロナ禍の状況を考慮した場合，本レッスンを含めた遠隔授業の実施は止むを得ない心理が表れたものと推察する．

質問【4】「質問【3】で、その回答を選んだ理由は何ですか？」であるが,「遠隔授業でマスクを着けずに歌う方が良い」を選択した側の理由として「マスクを着けると呼吸がしにくい・息苦しい・歌うのがしんどい」「マスクを着けると歌いにくい・口を開けにくい・声がこもる」といった，マスク着用にて歌うことに対する否定的意見が計 23 名あり，選択者の 67.6%に上った．一方,「対面授業でマスクを着けて歌う方が良い」を選択した側の理由としては「皆と一緒に歌う方が楽しいと思うので，やる気が出る」「対面で直接アドバイスをもらう方が良い，実践しやすいと思った」「自宅の環境的に，大きな声で歌うことに抵抗があった」等，質問【1】における「皆と一緒に歌えなかったことについて」カテゴリーの回

表３　2020年度後期「音楽Ⅰ（歌唱）」期末アンケート結果

【１】後期は15回すべてが遠隔授業になったため、“教室で皆と一緒に歌う”ということができませんでしたが、そのために困ったことや不満を感じたことは何かありましたか？

皆と一緒に歌えなかったことについて	・皆で歌った方が「歌っている」という気持ちになることができ、楽しかったのではないかと思った。皆で一緒に歌いたかった。皆と一緒に歌えなかったことが残念(18) ・他の学生の歌声が聴けないので、周りがどれくらい歌えているのか気になった(3) ・合唱してハモりたかった(2)　・皆の歌声を聴いてみたかった(2) ・一人で歌うだけでは楽しさを感じられなかった(2) ・皆と自分との実力差が分からないので、置いていかれるのではないかと不安を感じた
本レッスンをマンツーマンで受けたことについて	・他の人の声が聴こえない中、一人で歌うことに不安を感じた(4) ・個人レッスンの際、マンツーマンで歌うことが恥ずかしかった・緊張した(3) ・マンツーマンでのレッスンは寂しさを感じた(3) ・一人で歌うことに歌いづらさを感じた・歌う感覚をつかみにくかった(2) ・対面授業を行って他の学生へのアドヴァイスを聞くことができなかったことが残念
自宅から本レッスンを受けたことについて	・自宅からのレッスンは家族がいるときに恥ずかしさを感じた ・自宅では声量に配慮しながら歌う必要があった ・自宅でのレッスンはリラックスして受けることができたが、現場に出たときのことを考えると、緊張した状態で歌えるようにする訓練も受けたかった
本レッスンでZoomを用いたことについて	・Zoom越しではちゃんと自分の声が伝わっているのか不安を感じた ・パソコンやスマホでは時間差があるので、レッスンのときピアノとずれたりタイミングが分からないことがあった
その他	・特になし(8)

【２】第４回授業以降、主に先生の弾き歌いのお手本を鑑賞する方法を取り入れましたが、この授業方法についてどのように思いましたか？

・曲についての説明や上手く歌うためのヒントの話があったのが良かった(12)
・お手本によって、どのように弾き歌いすれば良いかおよびポイントがよく分かった(6)
・この方法は良かったと思った(6)　・お手本によって、知らなかった曲を多く知ることができた(5)
・お手本によって曲の雰囲気が分かった(3)　・お手本の演奏が上手いと思った(3)
・お手本があったことで授業が分かりやすくなったので良かった(2)
・YouTube等で子どもの歌を検索して聴くよりもこの授業の動画の方が聴き取りやすかった・ライブ感が伝わって良かった(2)
・動画は繰り返し聴けるので分かりやすかった(2)　・生演奏でのお手本も聴いてみたかった(2)
・動画でお手本を視聴するのは楽しかった(2)　・お手本のおかげで音程を合わせやすかった
・お手本のおかげでリズムがよく分かった　・色々な曲の弾き歌いが聴けて良かった
・お手本を聴くと毎回何か感じられるものがあったので良かった　・楽譜を見ながらお手本を視聴することで勉強になった
・お手本の演奏が聴きやすかった　・動画が見やすかったので良かった
・遠隔授業なので生の音は聴けなかったが、それに近い授業だったので受けやすかった
・対面授業と分かりやすさはそんなに変わらなかったと思うので良かった
・動画での授業は、リアルタイムで質問できない点が残念だと思ったので、その点へのフォローが欲しかった
・動画の長さが授業時間内におさまっていて良かった

【３】もし音楽Ⅰで対面授業を行っていた場合、マスク着用の状態で歌うことが求められましたが、Zoomで個人レッスンを行った際はほとんどの学生が自宅でマスクなしで歌っていました。あなたは「リモートレッスンでマスクを着けずに歌う」のと「対面授業でマスクを着用して歌う」のと、どちらが良かったと思いますか？

・リモートレッスンでマスクを着けずに歌う:34名　・対面授業でマスクを着けて歌う:16名
・その他:1名(フェイスシールドを着けて歌う)

【４】質問【３】で、その回答を選んだ理由は何ですか？（任意回答）

リモートレッスンでマスクを着けずに歌う方が良い	・マスクを着けると呼吸がしにくい・息苦しい・歌うのがしんどい(11) ・マスクを着けると歌いにくい・口を開けにくい・声がこもる(9) ・対面で、皆の前で歌う方が恥ずかしい・抵抗がある(2) ・一人で歌う方が気楽、緊張しない(2) ・マンツーマンでのリモートレッスンの方が好きに歌える、実力を発揮できそう(2) ・口を見せる方が、改善すべき点が見つかりやすいと思う(2) ・マスクがないと歌いやすい ・マスクを着けて歌うとマスクがずれたり、マスクの存在自体が気になる ・不織布よりウレタンマスクの方が歌いやすそうだが、ウレタンマスクで斉唱するのは怖い ・コロナ禍では交通機関を利用したくない　・未回答(8)
対面授業でマスクを着けて歌う方が良い	・皆と一緒に歌う方が楽しいと思うので、やる気が出る(3) ・対面で直接アドバイスをもらう方が良い、実践しやすいと思った(3) ・自宅の環境的に、大きな声で歌うことに抵抗があった(3) ・周りの人の歌声を聴くことによって学べることがあると思う ・歌いにくさを感じても生で歌を聴くことが大事だと思う ・マスクを着けていたとしても対面授業の方が身につきそう ・対面授業の方が分かりやすいと思う ・Zoomを通した声では、実際の声がどんな感じなのか伝わりにくいかなと思った ・自宅よりも学校で歌いたいと思った　・とにかく対面授業の方が良い
その他	・マスクを着けると歌いにくいが、フェイスシールドだと口元が空くため歌いやすそう

【５】「Zoomを用いた歌の個人レッスン」を計３回実施しましたが、このレッスンは「対面授業を行って皆で歌うことができなかったこと」をどれくらいカバーできていたと思いますか？

・ほとんどカバーできていた:14名　・まあまあカバーできていた:32名　・少しカバーできていた:5名
・あまりカバーできていなかった:0名　　回答者総数：51

答との関連が見られた.

質問【5】「「Zoom を用いた歌の個人レッスン」を計 3 回実施しましたが、このレッスンは「対面授業を行って皆で歌うことができなかったこと」をどれくらいカバーできていたと思いますか？」は，本レッスンが，第 2 章で述べた対面授業計画の（b)「子どもの歌についての学習および歌唱」の要素をどの程度担保できていたか確認するために設定した．結果は「まあまあカバーできていた」が 34 名（66.7%）と最も多く全体の 3 分の 2 を占めている．また，「ほとんどカバーできていた」と合わせると計 48 名（94.1%）に及ぶこと，「あまりカバーできていなかった」が 0 名であることから，本レッスンは，対面授業計画の（b)「子どもの歌についての学習および歌唱」の要素を「ある程度以上カバーできていた」とすることが適当であると考えられる．

5. 本遠隔授業における各授業方式についての検証および考察

5-1 検証－養成校における歌唱の遠隔授業の方法として適切であるか－

本節では，本遠隔授業において採用した［A-1］～［A-4］および［B］の各授業方式について，養成校における歌唱の遠隔授業の方法として適切であるか検証する．

まず「集団授業を遠隔授業に置き換える目的で用いた授業方式」である［A-1］～［A-4］について検証する．これらのうち［A-2］［A-3］［A-4］の 3 方式における授業内容は，対面授業計画の（a)「『自然で楽に歌うための発声法』をテーマとした講義」および（b)「子どもの歌についての学習および歌唱」を担保している．また，期末アンケートの質問【2】において［A-3］および［A-4］にて採り入れた範唱およびアドバイスの動画に好意的な回答が多く見られた．以上を併せると，集団授業を遠隔授業に置き換えた授業方式は［A-3］「資料配信および YouTube 動画による自習型授業」および［A-4］「資料および講義動画配信によるオンデマンド授業」が適切であるといえる．

次に［B］本レッスンについて検証する．本レッスンは（d)「歌の個人レッスン」を遠隔授業に置き換えたものであると同時に（a)「『自然で楽に歌うための発声法』をテーマとした講義」，(b)「子どもの歌についての学習および歌唱」，(c)「ソルフェージュ」を併せて担保しており，学生の歌唱力を直接的に向上させることが可能であることから，歌唱の遠隔授業を行う上で不可欠な方式であるといえる．また，レッスンアンケートにおいて本レッスンによる声の変化および気づきについての好意的な感想が多く見られたこと，期末アンケートの質問【3】において「リモートレッスンでマスクを着けずに歌う」方が良いとの回答が全回答者の 3 分の 2 を占め，さらにその内の 67.6%が質問【4】で「マスクを着けると呼吸がしにくい・息苦しい・歌うのがしんどい」「マスクを着けると歌いにくい・口を開けにくい・声がこもる」といったマスク着用にて歌うことに対する否定的意見を挙げていること，質問【5】において，本レッスンは対面授業を行って皆で歌うことができなかったことを「まあまあカバーできていた」との回答が 3 分の 2 を占め，「ほとんどカバーできていた」と合わせると全体の 94.1%に上り，「あまりカバーできていなかった」がゼロであった一方，質問【1】では，対面授業を行って斉唱できなかったことについての不満およびレッスンに際して不安を感じたとの意見が多く挙がっていることから，これらを総合すると，本レッスンは，歌唱の遠隔授業の方式として適切ではあるが，Zoom での受講に不安を感じる学生に対し，不安を取り除くための声かけ等の配慮を払った上での実施が望ましいといえる．

以上により，本遠隔授業で実施した授業方式では，［A-3］「資料配信および YouTube 動画による自習型授業」および［A-4］「資料および講義動画配信によるオンデマンド授業」に，Zoom での受講に不安を感じる学生に対しての配慮を払った上で［B］本レッスンを併用することが，養成校における歌唱の遠隔授業の方法として適切であると考えられる．

5-2 考察－本学における応用の可能性－

本節では，前節の検証において，養成校における歌唱の遠隔授業の方法として適切であると判断した授業方式である［A-3］「資料配信および YouTube 動画による自習型授業」および［A-4］「資料および講義動画配信によるオンデマンド授業」に［B］本レッスンを併用す

ることについて，今後本学において遠隔授業を行う必要が生じた際，「音楽 II」および「保育内容（表現・音楽）」の歌唱のクラス授業においてどのような応用が可能であるかについて考察する．

本稿執筆時点における本学の遠隔授業の環境については，大阪国際大短大部と同様，学生への連絡・動画・課題の配信に Google Classroom が使用可能となっており，同時双方向型授業には Google Meet [注 13)] が使用可能である．また，1 回生は全員パソコンを所持しており，次年度以降は全ての学生がパソコンを所持する予定である．

以上の環境を踏まえると，まず［A-3］「資料配信および YouTube 動画による自習型授業」および［A-4］「資料および講義動画配信によるオンデマンド授業」の 2 方式については，自宅または学内の Wi-Fi を利用することで実施可能であり，実施について特に問題はないと考えられる．また，この 2 方式を用いての授業内容であるが，「音楽 II」においては「自然で楽に歌うための発声法」「子どもの歌の歌唱」についての講義，筆者の弾き歌いによる範唱および歌う際のアドバイスを収録した動画を視聴させることが可能であり，「保育内容（表現・音楽）」においては，「弾き歌いの際，どのような点に留意すると歌いやすくなるのか」についての講義，筆者の弾き歌いによる範唱および弾き歌いに際してのアドバイスを収録した動画を視聴させることが可能である．

次に，［B］本レッスンであるが，本学では Google Meet を用いることで実施可能である．また，本レッスンは，本学における「音楽 II」の授業内容と同様 [10)] であるが，端末の設置場所を工夫してピアノを弾く姿と鍵盤を映させることにより，本学の「保育内容（表現・音楽）」の授業内容である「声楽専門教員による弾き歌いの個人レッスン」を行うことも可能である．ただし，Google Meet では Zoom の「待機室機能」に相当する機能が無く，学生が入室のためアクセスすると自動的に入室となる[注 14)] ことから，レッスン中に次の学生が入室可能であることへの対策が必要である．対策は，レッスンとレッスンの間に数分の間隔を空けること，終了時間が延びないよう，レッスン時間を長めに取って余裕を持たせること，指導内容を絞ること，前の学生のレッスンが終わり次第，次の学生に都度連絡すること等が考えられる．また，学生の住環境から自宅で歌えない場合は本学からレッスンを受けることになるが，現在本学でピアノが設置されている区域では 4 号館の 411 教室および同号館の一部のピアノ練習室のみ Wi-Fi が使用可能であることから，これらの部屋を指定して学生に通知することが必要である．

6. まとめ

本研究では，大阪国際大短大部 2020 年度後期「音楽 I 」の歌唱の遠隔授業において用いた複数の授業方式について実践報告を行うとともに，それぞれの授業方式が養成校における歌唱の遠隔授業の方法として適切であったか検証を行った．そして，その検証結果が今後本学において遠隔授業を行う際，「音楽 II」および「保育内容（表現・音楽）」のクラス授業において，どのように応用可能であるか考察することにより，コロナ禍における養成校の歌唱の集団授業のあり方について，さらなる方法論を提示することを目的とした．

以下に，検証および考察についてのまとめを示す．

- 本遠隔授業において用いた授業方式では，［A-3］「資料配信および YouTube 動画による自習型授業」および［A-4］「資料および講義動画配信によるオンデマンド授業」に，Zoom での受講に不安を感じる学生に対しての配慮を払った上で［B］本レッスンを併用することが，養成校における歌唱の遠隔授業の方法として適切であると考えられる．
- ［A-3］「資料配信および YouTube 動画による自習型授業」および［A-4］「資料および講義動画配信によるオンデマンド授業」の 2 方式をを本学で用いる場合，「音楽 II」においては「自然で楽に歌うための発声法」「子どもの歌の歌唱」についての講義，筆者の弾き歌いによる範唱および歌う際のアドバイスを収録した動画を視聴させることが可能であり，「保育内容（表現・音楽）」においては，「弾き歌いの際，どのような点に留意すると歌いやすくなるのか」についての講義，筆者の弾き歌いによる範唱および弾き

歌いに際してのアドバイスを収録した動画を視聴させることが可能である.

・本学の「音楽 II」および「保育内容（表現・音楽)」において［B］の個人レッスンを行う際, 本学では Zoom の代わりに Google Meet を用いることになる. それに伴い, Google Meet に「待機室機能」が無いことへの対策，および本学からレッスンを受講する場合に受講場所を 4 号館の 411 教室および同号館の一部のピアノ練習室に限定することを指示する必要がある.

・［B］の方式では「音楽 II」の授業内容である「歌の個人レッスン」だけでなく，端末の置き場所の工夫により，「保育内容（表現・音楽)」の授業内容である「Google Meet を用いた声楽専門教員による弾き歌い個人レッスン」も実施可能である.

・以上により，［A-3］［A-4］［B］3 つの授業方式は，本学における「音楽 II」および「保育内容（表現・音楽)」において応用可能であり，本研究の目的であるコロナ禍における養成校の歌唱の集団授業のあり方について，さらなる方法論を提示できたといえる.

なお，前研究では，学生の通信環境から「保育内容（表現・音楽)」の遠隔授業において「音声通話授業」を採用したが，これは教員と学生相互の顔および手指が見えないことによる制約が問題であった[20) 21)]．しかし，今後本学で遠隔授業を行うことになった際は［A-3］［A-4］［B］の 3 方式を応用することにより，これらの制約を受けない授業およびレッスンが可能になったといえる.

続いて，考察の過程で確認された問題点について述べる．それは「期末アンケートの質問【1】における，対面授業を行って皆で斉唱することができないことへの不満を，何らかの方法でフォローできないか」ということである．このことについて，安藤江里[22)] は小学校教員養成校での Zoom を用いた歌唱の同時双方向型授業において, 学生のマイクをオフにした状態で著者がピアノを弾き，学生はピアノに合わせて歌う授業方法を採り入れており，さらに歌う曲について学生からリアルタイムでリクエストを募った「リクエスト唱」が好評を得たとのことで非常に興味深い．ただ，この方法は Zoom のカメラ機能をオンにして学生の反応を見ながら進める必要があることから，大阪国際大短大部の［A-2］方式の授業においてカメラをオフにすることを許可している現状での応用は難しいが，本学において Google Meet を用いての応用は可能であることから，本学で遠隔授業を行う際の参考としたい.

冒頭でも述べた通り，コロナ禍は終息に至っておらず，現在も遠隔授業に切り替わる可能性は無くなっていない．また，対面授業を行う場合でも，教室の窓を開け，学生間の距離を空け，マスク着用を必須にする等の感染対策を十分に行う必要がある．すなわち，発声を伴う歌唱の授業は，対面授業を継続するにしても，遠隔授業に切り替えることになったとしても，授業の際にコロナ禍特有の工夫が求められる．また，第 1 章で述べた通り，コロナ禍における養成校の歌唱の授業についての研究がわずかであることも併せ，今後も引き続き「コロナ禍における養成校の歌唱の授業のあり方」をテーマとした研究を継続したいと考えている.

注釈

注 1）前稿執筆時，学生が教室において教員と直接対面して受ける授業について，文部科学省の通知では「面接授業」と表記されていたが，最近の通知では「対面授業」「対面による授業」との表記に変わっている[23)] ことから，本稿では「対面授業」の表記に統一する.

注 2）前研究においては対象教科の集団授業をクラス単位で行っていたことから，本学の音楽関連科目における通称である「クラス授業」を用いたが，大阪国際大短大部ではクラスの単位を採用していないことから，本授業については「集団授業」を用いることとする.

注 3）「Zoom ビデオコミュニケーションズ」が提供するビデオ会議アプリケーションの名称．サービス内にミーティングルームを開設し，ミーティング ID およびパスワードを共有するユーザー同士で，多地点で同時にビデオ会議を行うことができる．また，会議中はカメラおよびマイクのオン・オフも可能で，主催者および他の出席者に姿を見せない，音声を聞かせない状態での参加も可能である.

注 4）国立情報学研究所の論文検索サイト CiNii（NII 学術情報ナビゲータ［サイニィ］）において検索を行ったところ，「コロナ　音楽」では 137 件[注15]，「コロナ　保育者養成」では 25 件[注16]，「コロナ　歌唱」では 11 件[注17] 表示される．このうち，養成校におけるピアノのレッスンに関する研究は 8 件，弾き歌いのレッスンに関する研究は筆者の前研究を合わせて 5 件，歌唱の授業に関する研究は前研究を合わせて 3 件であった．

注 5）Google が学校向けに開発した無料のアプリケーションで，資料および動画の配信，課題の作成・配信・提出，連絡事項の掲示，個別の学生との連絡等をアプリケーション上で行うことが可能である．資料・動画・課題の保存には Google のクラウドである「Google ドライブ（Google Drive）」，課題作成には Google のアンケート作成アプリケーションである「Google フォーム」という具合に，種々の Google アプリケーションを組み合わせて用いる．学生は教科ごとの招待コードを介して Google Classroom に参加登録する．

注 6）日本システム技術株式会社が学校向けに開発した Web サービスで，UNIPA は「Universal Passport」を略した名称である．UNIPA では，学生の出欠状況，成績の管理の他，資料の配信，連絡事項の掲示を行うことも可能である．

注 7）第 1 回授業のレポート課題としてのアンケートでは，合唱および歌唱経験について，人前で独唱することについてどう思うか，声の大きさを自己評価しよう，声に対する悩み・疑問はあるか，どのような声や歌について上手いと思うか等の質問を行った．

注 8）大阪国際大短大部では，学生のプライバシー保護の観点から，Zoom を用いた同時双方向型授業の際は学生がカメラをオフにすることを許可するよう要請があったため．マイクについては，ハウリング等を防止する目的から，教員の発言中はオフにするよう当初より学生に指示している．

注 9）YouTube への登録は限定公開にて行い，URL を知っている者以外は検索およびアクセスできないように配慮している．

注 10）動画の収録には Zoom の録画機能を用い，学生が入室していない状態で Zoom による講義を行って録画した．

注 11）Zoom の機能の一つで，設定することにより，入室しようとした者を待機状態にすることができる．その後，会議の主催者が入室許可の操作を行うことで入室することができるようになる．

注 12）マンツーマンの個人レッスンに Zoom を用いる場合は，レッスンの性質および目的から，学生のカメラをオンにさせることを認められている．

注 13）Google 社が提供するビデオ会議サービスの一つ．Google Meet サービス内にミーティングルームを開設し，会議コードを共有するユーザー同士で，多地点で同時に Web 会議を行うことができる．また，会議中カメラおよびマイクのオン・オフが可能である点は Zoom と同様である．

注 14）学生は筆者（授業の主催者）が入室を操作することなく入室できる．

注 15）国立情報学研究所：「CiNii Articles - 日本の論文をさがす」「コロナ　音楽」，https://ci.nii.ac.jp/search?q=%E3%82%B3%E3%83%AD%E3%83%8A%E3%80%80%E9%9F%B3%E6%A5%BD&range=0&count=20&sortorder=1&type=0（2021.11.30）

注 16）注 15）と同じ，「コロナ　保育者養成」，https://ci.nii.ac.jp/search?q=%E3%82%B3%E3%83%AD%E3%83%8A%E3%80%80%E4%BF%9D%E8%82%B2%E8%80%85%E9%A4%8A%E6%88%90&range=0&count=20&sortorder=1&type=0（2021.11.30）

注 17）注 15）と同じ，「コロナ　歌唱」，https://ci.nii.ac.jp/search?q=%E3%82%B3%E3%83%AD%E3%83%8A%E3%80%80%E6%AD%8C%E5%94%B1&range=0&count=20&sortorder=1&type=0（2021.11.30）

引用・参考文献

1）和田宏一：「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）流行時における保育者および小学校教員養成校の歌唱を中心としたクラス授業についての実践報告」，『奈良佐保短期大学

研究紀要』28，pp.89-101（2021）
2）大阪国際大学・大阪国際大学短期大学部：「遠隔授業への切り替えについて【2020 年 11 月 10 日更新】」，https://www.oiu.ac.jp/re-news/archives/2020/11/101705.html（2021.11.30）
3）大阪国際大学・大阪国際大学短期大学部：「遠隔授業の継続について【2020 年 11 月 19 日更新】」，https://www.oiu.ac.jp/re-news/archives/2020/11/191637.html（2021.11.30）
4）大阪国際大学・大阪国際大学短期大学部：「遠隔授業の継続について【2020 年 12 月 2 日更新】」，https://www.oiu.ac.jp/re-news/archives/sp_new/2020/12/021702.html（2021.11.30）
5）大阪国際大学・大阪国際大学短期大学部：「遠隔授業の継続について【2021 年 1 月 6 日更新】」，https://www.oiu.ac.jp/re-news/archives/2021/01/061632.html（2021.11.30）
6）1）と同稿，p.89
7）和田宏一：「保育者養成校における歌唱指導のあり方についての考察（2）：音楽 II のクラス授業における取り組みについて」,『奈良佐保短期大学研究紀要』, 26, pp.41-53（2019）
8）1）と同稿，p.90
9）7）と同稿，p.43
10）7）と同稿，pp.44-46
11）7）と同稿，p.41
12）和田宏一：「保育者養成校における歌唱指導のあり方についての考察（3）：保育（表現・音楽）における弾き歌い時の発声指導に関する取り組み」,『奈良佐保短期大学研究紀要』, 27，p.68（2020）
13）井口太編著：『最新・幼児の音楽教育：幼児教育教員・保育士養成のための音楽的表現の指導』，朝日出版社，p.138（2018）
14）13）と同書，p.171
15）13）と同書，p.163
16）13）と同書，pp.146-147
17）大阪国際大学短期大学部：『保育に役立つ　基礎から学ぶピアノ』, カワイ出版, p.76（2018）
18）17）と同書，p.122
19）7）と同稿，pp.46-47
20）1）と同稿，p.92
21）1）と同稿，pp.94-95
22）安藤江里：「学部教育におけるオンラインでの音楽指導の試み」,『教育総合研究（松本大学）』，4 別冊，pp.237-240（2020）
23）文部科学省：「大学等における遠隔授業の取扱いについて（周知）（令和 3 年 4 月 2 日）」，https://www.mext.go.jp/content/20210426-mxt_kouhou01-000004520_1.pdf（2021.11.30）